

散歩道

黄色く染 同行した日本海未来ウオ
まったイチ ークの仲間たちは、久し
ヨウ並木道 ぶりに会う韓国の実行委
が続いてい 員会の皆さんとの再会を
る。空気が 喜び合った。初めて参加
澄みわた した私も温かく歓迎して
り、少し肌 くださった。

寒いくらいだ。第十四回 いよいよスタートの時
韓国国際ウォーキング大 間がやってきた。「コッ
会に参加するため、会場 チャ、コッチャ(歩こう)」
である。「原州市若さの と元気な掛け声を掛け合
広場」に向かった。い、出発。人、人、人…。

到着すると、バルーン 初めはなかなか前に進ま
が上がり、万国旗がはた なかったが、みんなに遅
めき、広い会場の周りに れまいと元気に歩く。家
はたくさんテントが並 族連れ、友達同士、外国
んでいた。「アンニョン の人など、それぞれが自
ハセヨ」「コンニチハ」。 分のペースで楽しく歩い

韓国ウォーキング大会に参加

ていた。

韓国の中学生は、日本 する楽しいひとときであっ
人だと分かる。「コンニ だ。
チハ」と話しかけてくる。

三日目は、原州市の大

片言の韓国語でも結構通 学や小学校を見学した。

じて、パソコンやゲーム 小学校では校舎内を案内

が好きなこと、マンガの され、子どもたちと一緒に

コナンが大好きだという に食堂で給食をいただきたい

こと、人気歌手のことな た。最後に原州市の新し

ど、次々と話してくれた。 い庁舎も案内していただ

日本人のウォーカーにも いた。ウォークを通じ、

たくさん出会い、十キを 韓国を肌で感じることに

楽しく歩くことができ でき、さらに交流が深ま

た。 りより理解し合うことが

二日目は、初日に知り 大切だと実感した。

合った韓国の女性と一緒 高多 俊子(倉吉市関

に歩いた。家族のこと、 金町関金宿)

韓国や日本のことを話